

コロナの影響など情報交換

オンラインで理事会開催

将来の需要増加へ対応を

日本RPF工業会

(一社)日本RPF工業会(長田和志会長)は4月23日、ミーティングツールのZoomを使ってオンラインで2020年度第1回理事

会を開催した。今年度の総会について、新型コロナウイルス感染症防止対策が求められている状況を鑑みて、委任状の提出率が100%であればみなし決議を行うことも同意書の全

員提出が見込めるので、みなし決議を行うことを決めた。理事会ではさらに、新型コロナウイルスの影響とマスクなど防護具の確保対策について

の情報を提供し、外国人技能実習生制度ワーキンググループの進捗についての報告があった。

各地におけるRPF(廃プラスチックと紙くすなど)でつくる固形燃料)の原料となる廃棄物の調達の現状について報告もあった。原料調達の状況については、特に新型コロナウイルスで産業活動への大きな影響が出ている

状況については、一部の製紙メーカーで減産の動きがあるが、他の廃棄物由来燃料が減っていることもあり、需要は安定しているという。さらに、製紙メーカーの他に、セメントメーカーや化学メーカーなどからのオフア

首都圏からも原料を調達している地方の業者では、6月頃には原料が不足する懸念があるとの報告があった。

現在、RPFの需給

工業会ではこのような動向を見据えて、現在の技術品質、安全衛生、総務広報の各委員会に加えて、新たに用途開発の委員会を設けた。RPFの需要家企業の広がりなどについて、今後さらに会員への情報提供を強化する考えだ。